

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和 6 年度)

(宛先)岡崎市長様

令和 7年 4月23 日

団体名 すいか隊

代表者 佐野 章子

構成員 11 人(※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的:団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

本会は、男女共同参画多様性社会の推進活動を通じて、岡崎市民の意識の向上と生活スタイル改善に寄与することを目的とする

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
 なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外)人 数※1	活動内容
6月30日	広幡学区 市民ホーム	広幡学区 社教委員会	29人	ダンボールベッド作製、非常時のトイレの使い方説明、防災クイズなどにより、参加者の防災意識を高めた
7月12日	大樹寺学区 市民ホーム	大樹寺学区 社教女性部	46人	クロスロードゲームで災害発生時に何をすべきかを考え、食料の備蓄のこつや、ファーストミッションボックスを使用して、女性視点の避難所運営を参加者が学んだ
9月16日	梅園学区 市民ホーム	梅園地区 女性防災クラブ	7人	避難所になる小学校のレイアウトに基づいて、実際の避難所を想定して、避難所運営疑似体験(HUG)を行い、参加者が問題点を考えた。また、ファーストミッションボックスについての説明をした
9月29日	梅園学区 市民ホーム	梅園地区 女性防災クラブ	8人	同上
11月10日	矢作南学区 市民ホーム	矢作南学区 社教女性部	41人	参加者が実際にファーストミッションボックスを開封してみて、避難所開設を体験した。また、非常用トイレやダンボールベッド作製により、災害時にまずすべきことを学んだ

11月24日	りぶら302 会議室	多様性社会推 進課主催外国 人サポーター研 修参加者	18人	非常時に外国人をサポートするボラ ンティア研修にて、サポーターが非 常用トイレやダンボールベッド作製 を実体験した
12月 3日	本宿学区 市民ホーム	本宿学区 社教女性部	23人	非常時にも心温まる食事をというこ とで、クリスマス風非常食を作った 彩をクリスマス風にし、クリスマスデ コレーションをした蒸しケーキなど レシピも考案した。料理の間にファ ーストミッションボックスを説明した
12月 8日	社会福祉 センター 活動室	一般市民	12人	講師を招き講演会とワークショップ を開催した。30 代ママと考える昭 和から令和への世代間ギャップにつ いて、男女共同参画の視点で考え、 意見交換をした
1月11日	井田集会所	井田九区 町内会	14人	町内会で非常時を想定して、通常の トイレにビニール袋をかぶせて非常 用トイレにすることや、ダンボールベ ッド作製を実体験した
2月 8日	りぶら301 会議室	一般市民 (こどもと家族)	43人	避難生活で役立つ実践的な方法を 親子で学び、こどもとつくる考える 避難所疑似体験講座を行った 男女共同参画の視点の寸劇を織り 込み、家族の避難から始まり、避難 所開設の注意点やファーストミッシ ョンボックス、非常食、ダンボールベ ッド作製、ペット避難、家具の固定な ど、さまざまな状況を親子、家族で 体験した
2月27－ 3月4日	りぶら 2 階 お堀通り	一般市民	約100人	パネルを作成し、パネル展で本会の 活動紹介・事業報告をした

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。＜ex.自然環境＞

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

災害が多い昨今なので、今年度は防災に関しての出前講座の依頼が多く、各種団体に向けて広く出前講座を実施し、男女共同参画・多様性社会の視点での防災の重要性を説き、市民各自の防災意識の向上になった。また、男女共同参画多様性社会セミナーでは、世代間の男女共同意識の違いや、無意識の差別など、いろいろな立場の人たちが集い、有意義な意見交換になり、男女共同参画多様性社会推進の啓発になった

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← ⑤ 4 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

- 少ない隊員数でも、一人ひとりの男女共同参画多様性社会推進への意識が高く、準備段階から、多くの市民へ新しい情報を伝え、意識改革を行った
- ・市民の参加協力をいただき、活動評価も高かった。市民に対し意識改革がなされ、男女共同参画多様性を考慮した役割分担の必要性を考えるきっかけになった
- ・隊員は日々活動を行うに際し、各種研修やセミナーに参加し、自己研鑽に励んだ。
- ・岡崎市の男女共同参画多様性社会実現のため、他団体との協働に努めた。
- ・隊員のみならず市民に向けて、時代にあった問題を提起し、男女共同参画多様性についての興味を深め、問題解決に向けて尽力した。
- ・会の活動への興味・理解を深めるために、情報誌キラットを編集・発刊し、パネル展に参加し、また SNS を利用しての発信も試みた